

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

< 噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続 >

本日（11 日）、鹿児島県及び九州地方整備局の協力により実施した気象庁機動調査班（JMA-MOT）の上空からの観測では、火口内の東側付近から、灰白色の噴煙が火口縁上 700m まで上がり東側に流れていました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は確認されませんでした。

【防災上の警戒事項等】

新燃岳の火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

### 活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図 1～3）

本日（11 日）、鹿児島県及び九州地方整備局の協力により実施した気象庁機動調査班（JMA-MOT）の上空からの観測では、火口内の東側付近から、灰白色の噴煙が火口縁上 700m まで上がり東側に流れていました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は確認されませんでした。また、西側斜面の割れ目付近と割れ目下方では噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。

監視カメラによる観測では、灰白色の噴煙が火口縁上 500m まで上がっており、本日 18 時現在も小規模な噴火が継続しています。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（[http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び宮崎県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図 1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

火口内の東側付近（図の赤破線）から、灰白色の噴煙が火口縁上 700m まで上がり東側に流れていました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は確認されませんでした。



図2 霧島山（新燃岳） 新燃岳南西側と火口内の状況

- ・火口内の東側付近（図中の赤破線）で、前回観測時（10月10日）には認められなかった灰白色の噴煙が観測されました。
- ・西側斜面の割れ目付近（図中の黄破線）と割れ目下方の噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。

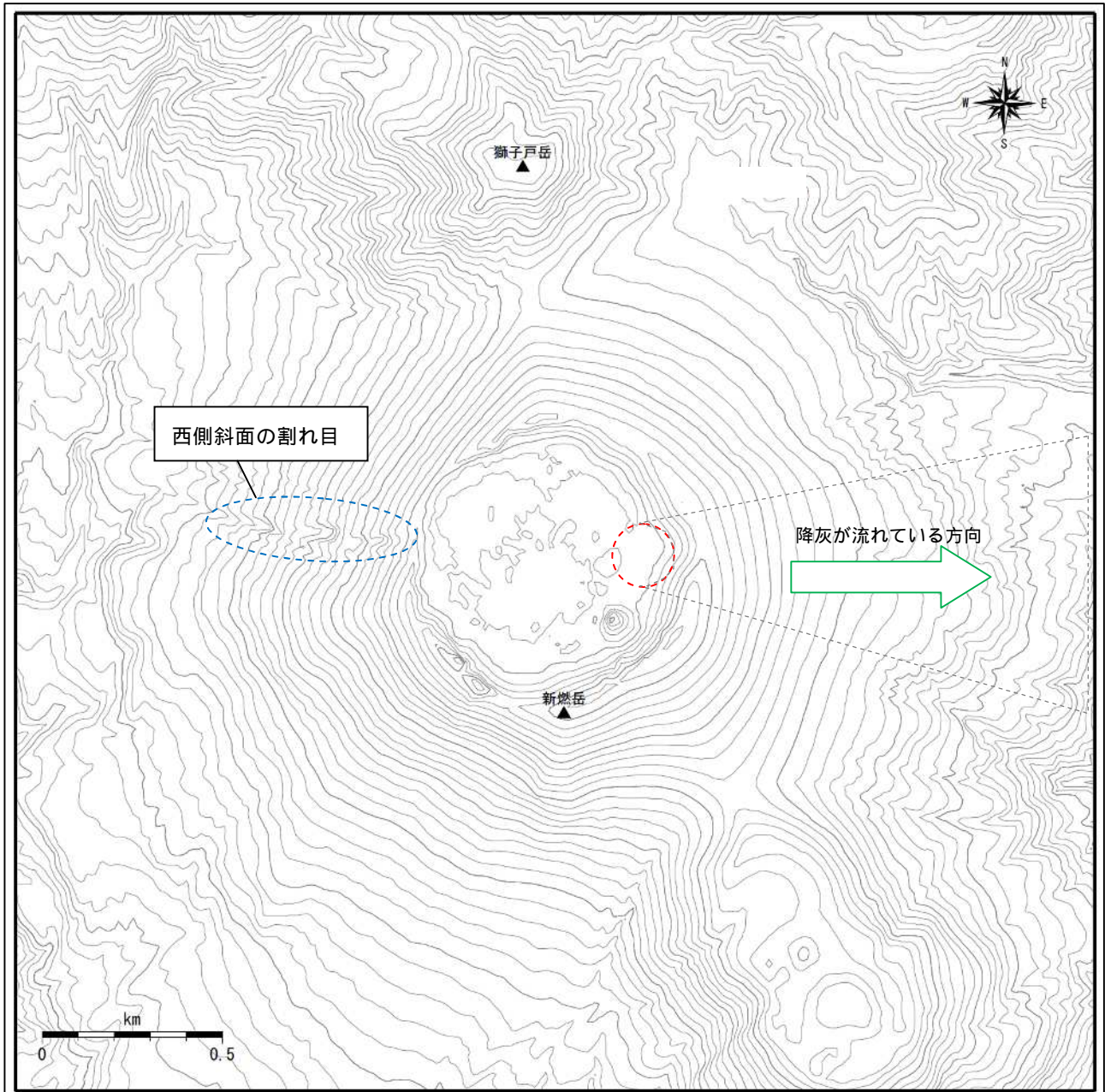


図 3 霧島山（新燃岳） 火口内の噴火位置

- ・ 火口内の東側付近（図中の赤破線）で灰白色の噴煙が観測されました。
- ・ 降灰は火口東側方向に流れていました。

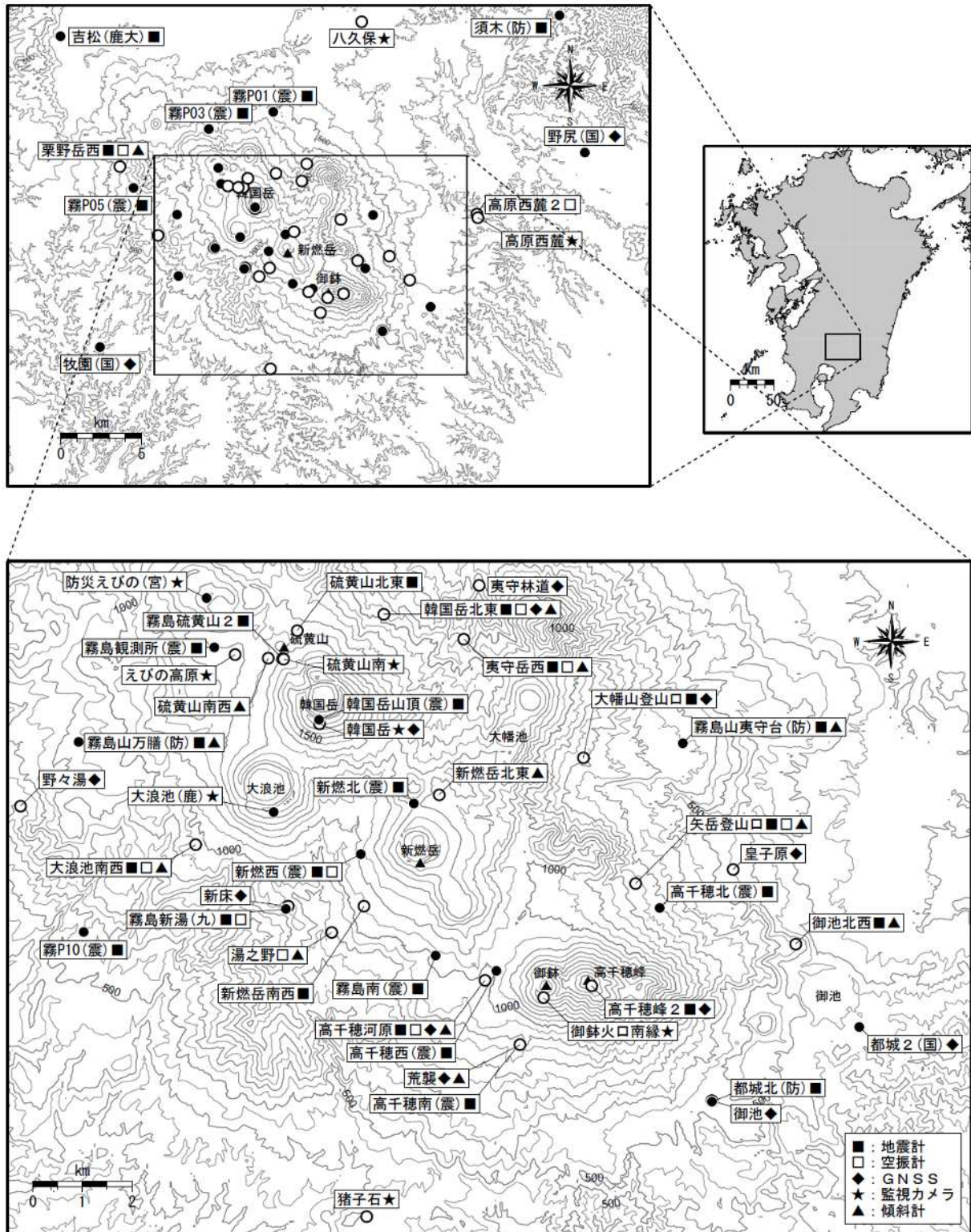


図 4 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 ( ) は気象庁、小さな黒丸 ( ) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所  
 (九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県